平成 29 年度第２回金沢市景観審議会

日時：平成 29 年８月 30 日（水）　午後３時～午後４時

会場：金沢市庁舎 7 階　全員協議会室

出席委員：森会長、川村副会長、川﨑委員、小林忠雄委員、小林史彦委員
坂本委員、関戸委員、玉田委員、鍔委員、西野委員、能木場委員、
馬場先委員、福岡委員、
富山委員（代理：二木建設専門官）、二塚委員（代理：高田課参事）

欠席委員：宇佐美委員、土田委員、中村委員、福光委員、増田委員、

事 務 局：都市整備局　木谷局長
景観政策課　松矢課長、中谷課長補佐、不破係長、寺井主査、正田主査
総務課　山田課長
歴史都市推進課　石浦室長、木村担当課長補佐
都市計画課　宮風課長補佐
建築指導課　北本課長
営繕課　林課長

１　開会

２　都市整備局長あいさつ

３　議事

報告案件

(1) 平成 29 年度上期景観施策について

・景観関連各種届出等件数

・長町景観地区景観まちづくり

・景観審議会及び専門部会の開催

(2) 平成 29 年度上期専門部会審議結果

①建物部会

・共同住宅新築計画（下堤町地内）

・ホテル新築計画（広岡 2 丁目地内）

・金沢市第 2 庁舎建設計画（柿木畠 1 丁目地内）

②計画部会

・石垣景観の保全について

４　閉会

【議事録】
（会長）
私が建物部会の部会長もしているので、少し補足する。新幹線開業後も、ホテルとマンションの建設ラッシュが続いている。新幹線開業以前は、工期が厳しいものや外部資本のものが多く、問題視しなければならないものがあり苦慮していた。開業以後は、金沢市の景観に関する指導が厳しいことが伝わってきたということや時間的に余裕があってか、以前よりは苦慮することが少なくなっていると感じている。
最初の下堤町の共同住宅は、比較的立派なマンションである。分節化などの議論をしている。特に足元回りにできるだけ歩行スペースを設け歩道とのつながりや連続感を保てるように配慮してもらっている。民間の施設であるが、緑化や夜間景観に配慮してガーデン等などの工夫が見られた。残念なのは、後方にも以前北國銀行がもっていた敷地があるが、なかなか一体的な計画ができない。隣地との関係をもう少し調整できるとよかったように思う。北側は住宅もあり、開口部の位置などプライバシーに配慮してもらっている。
2 件目のホテルであるが、駅西の５０m道路に面している。足元の 2 層部はは賑わいの創出に努めている。外壁はニュートラルな色彩で、特に心配はなかった。屋上は設備機器が多く設置されるが、仮設的なパネルではなく外壁材で囲ってもらっている。
金沢市第２庁舎についてであるが、以前、十分議論していただいているものである。内に入る用途を調整し、本庁舎との渡り廊下は取りやめとなっている。周辺が混んでいるところであるので、建物本体、周辺との関係をどう配慮するかが重要であった。元案を修正しながら、大きくは変わらないように計画が進んでいる。用水側はひきを取ることに努め、なるべく散策できるように努めてもらっている。最後に、もう少し緑化を増やすため、隙間に植栽を追加し、中木を高木にするなど対応してもらうことになっている。北側は建物を 2 層までとし、散策路を設けて周辺への圧迫感を軽減している。南側は地下にある程度の台数の駐車場を計画しているが、ゲートをできるだけ内部に引き込み、入庫待ちの車が道路に溜まりにくいようにしている。東側のエントランスはガラス部分を多くしている。また、芝生のやさしさと併せて道路との交差部にもう少しハードペイブの部分を増やす形にお願いしている。外部の色彩については、本庁舎の色彩と同色系で整理されることになる。
建物部会について、補足は以上。

＊＊＊事務局からの報告（計画部会報告）＊＊＊

（部会長）
　補足する。計画部会では、すぐに崩れそうなものはないのかという質問があり、特に見当たらないということであった。景観的にどのような状態か調査するということであった。
（会長）
　これまでの報告について、意見、質問があればどうぞ。
（A 委員）
　金沢市第 2 庁舎について。すっきりしたものになった。周辺の景観をよく考えられていて、特に用水との関係は違和感のない配置となっている。個人的意見であるが、植栽計画について詳細は不明だが、公共建築物の外構としてはケヤキや松など最近の傾向はどこも同じように感じる。金沢は素晴らしい都市で個性的にすべきであると考える。できるだけ他の都市とは違う景観が見られるということは将来的に大きいと感じる。先日も東京から来た文化人が鈴木大拙館や室生犀星記念館など小さい都市の中にセンスのよいものが多く驚いていた。植栽も金沢らしさが滲みでるものがよい。桜などはどこにでもあり、必ずしも花見の対象になっていない。三文豪の作品に描かれている金沢の樹木を確認すると、明治、大正期は果物、アンズやグミなどの生り物が多い。また、鏡花の「傘」では広坂通りで目立つのは武家屋敷の名残りかナラ、ハハソ、コナラ、ホオノキが目立つとかかれている。現在とは異なる。すべてが江戸時代に戻そうという発想はではないが、この町らしさを考えるときに、かつてあった樹木の中のホオノキの５月６月の透き通った新緑は、大変すばらしく、やや無機質な近代建築にあうと思う。金沢らしさをどこかで考えてもらいたい。全市的に、植相の計画、特徴のあるエリアを考えるなどしてもよいのではないか。
（総務課）
　貴重な意見をありがとうございます。エントランス部には、マツやウメ等の金沢の象徴的なものを植える予定で、既存樹をできるだけ残したうえに、さらに高木を植える予定である。現計画では一般的な樹木としているが、今後専門家の意見をもらいながら、金沢らしい良い植栽としていきたい。
（会長）
　今出た意見を参考にしてもらうということで、これまでの各部会からの報告について了承ということでよろしいか。
（全委員）
異議なし。

―以上―